

平成28年度審議事項

審議年月日	平成28年6月21日	
申請者	看護師	金子 弘明
代表者	看護師	金子 弘明
共同担当者	看護師	長田 静 他2名
16-01	脊髄損傷患者の睡眠に対するアロマセラピーの有用性	
研究の概要	<p>老年期の認知症患者等へのアロマセラピーの睡眠障害に対する有用性は立証されているが、脊髄損傷患者に対するアロマセラピーの先行研究はないため、脊髄損傷患者の睡眠に対するアロマセラピーの有用性に関して検証を行う者である。</p>	
判定	継続審議	指摘事項を修正のうえ、平成28年9月6日承認

審議年月日	平成28年7月19日	
申請者	リハビリテーション科医師	宇内 景
代表者	リハビリテーション科医師	宇内 景
共同担当者	看護師長	山田朗加 他2名
16-02	回復期脊髄損傷患者の身体的特徴の推移	
研究の概要	<p>適切な栄養管理ができ、体重などの身体バランスを維持することでリハビリテーションの効果を十分に発揮することが期待される。BMIは栄養指標の一つとなっているが、脊髄損傷患者においては麻痺部分の筋萎縮や代謝の低下から健常者と同様の評価は困難である。そのため、どの病院でも測定可能な項目から回復期の脊髄損傷患者の身体的特徴の推移及びADLの獲得状況との関係性を評価し、栄養管理指標とできる可能性について検討する。</p>	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年9月20日承認

審議年月日	平成28年8月16日	
申請者	看護師	関川 沙織
代表者	看護師	関川 沙織
共同担当者	看護師	柴田 麻実 他4名
16-03	人工関節置換術後に発生した深部静脈血栓症の早期随伴症状と基礎データに関する検討	
研究の概要	<p>人工関節置換術後のDVT患者とその基礎データから、DVTの発生と基礎データに関連、特徴があるのか、DVTの発生と発生時の随伴症状の出現の有無との関連を明らかにすることで、DVT発生の予防・早期発見につなげ、患者指導に活かすことを目的とする。</p>	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年11月18日承認

審議年月日	平成28年8月16日	
申請者	診療情報管理士	藪下 千恵美
代表者	診療情報管理士	藪下 千恵美
共同担当者	統括診療部長	谷戸 祥之 他1名
16-04	診療情報提供書として活用できる退院時要約の質的向上と監査	
研究の概要	退院時要約を充実させることで、有機的に連携できる記録として記載されるよう、退院時要約の記載内容の改善を図り、退院時要約の内容を診療情報提供書として活用できるか検討することを目的とする。	
判定	条件付承認	

審議年月日	平成28年9月20日	
申請者	看護師	野村 祐子
代表者	看護師	野村 祐子
共同担当者	看護師	清岡 愛 他4名
16-05	回復期脳卒中患者の病棟内歩行訓練開始時期の検討	
研究の概要	脳卒中患者のFIM移乗項目4点獲得における、歩行能力と歩行能力獲得までの期間について明らかにし、どの時期に歩行への介入をしたらよいか考察する。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年9月23日承認

審議年月日	平成28年9月20日	
申請者	薬剤師	清水 翔太
代表者	薬剤師	清水 翔太
共同担当者	整形外科医師	許斐 恒彦 他2名
16-06	腰部脊柱管狭窄症の手術後疼痛に対する治打撲一方の効果	
研究の概要	治打撲一方は300年以上前に日本で創方された処方薬であり、武士の傷を癒す秘伝の薬として江戸時代から受け継がれてきたものである。本研究の目的は、腰部脊柱管狭窄症の手術後の症例に対して、手術後早期から治打撲一方を投与することで、有効且つ安全に疼痛をコントロールできる可能性について検討することを目的とする。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年10月13日承認

審議年月日	平成28年10月18日	
申請者	副看護師長	佐々木 由美子
代表者	副看護師長	佐々木 由美子
共同担当者	副看護師長	原 道代 他3名
16-07	脊髄障害自立度評価法（SCIM）は回復期脊髄損傷患者の褥瘡発生要因の指標として有用性があるかの検証	
研究の概要	脊髄障害自立度評価法（SCIM）の評価項目は、回復期脊髄損傷患者の褥瘡発生要因の指標として有用か、褥瘡発生要因として関連の深いものや得点分布が明らかにできるのかを検証する。その結果を用いることで、回復期脊髄損傷患者の褥瘡予防ケア介入の必要な対象や時期の明確化が期待される。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年11月10日承認

審議年月日	平成28年10月18日	
申請者	看護師	横山 里奈
代表者	看護師	横山 里奈
共同担当者	看護師	宮田 佳奈 他2名
16-08	手術室看護師による術前外来導入に向けての現状調査	
研究の概要	当院の特色を活かした手術室看護師による術前外来の導入へ向けての方法を検討、実施したいため、患者アンケートを行い現在の術前訪問の問題点や改善点を明らかにし、術前の不安軽減やより安全な手術へ向けた術前外来の実施に繋げていく。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年10月25日承認

審議年月日	平成28年10月18日	
申請者	看護師	齋藤 美希
代表者	看護師	齋藤 美希
共同担当者	看護師	宮田 佳奈 他4名
16-09	脊椎手術における合併症調査－合併症調査カードの作成と活用－	
研究の概要	近年、手術法や技術の発展により高齢者でも長時間の手術が適応されることも増加しており、予防策を講じているが、軽微な合併症が生じることもある。また当院の脊椎手術患者は複数の病棟に入院しており、全体での術後合併症の発生率の把握や情報共有ができていない。そのため、統一した視点での合併症調査を行いたい。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年11月1日承認

審議年月日	平成28年10月18日	
申請者	看護師	池谷 由来
代表者	看護師	池谷 由来
共同担当者	看護師	小形 正美 他4名
16-10	地域包括ケア病棟における退院前訪問の効果と課題～退院後の患者からの聞きとり調査でみえたこと～	
研究の概要	これまで、退院後の自宅訪問が行えていなかった。そのため看護師の行った退院調整や退院指導は、在宅療養に結びつくものであったのか、家族や患者は安心して生活できているのか、患者本人から情報を得ることが困難であった。そのため、退院前・退院後訪問を行い現在行っていることの検証を行い、問題点を明らかにし退院前・退院後訪問の効果や課題を明らかにしていく。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成29年2月7日承認

審議年月日	平成28年11月15日	
申請者	看護師	吉原 絵里
代表者	看護師	吉原 絵里
共同担当者	看護師	清水 紗也 他3名
16-11	整形外科術後の患者の環境についての疑似体験が看護師に及ぼす影響～脊椎手術後のルート類、脊椎装具を用いた体動制限を体験して～	
研究の概要	看護師自身が実際のルート類や装具を使用して、術後患者の環境を疑似体験することで、看護師の術前訓練に対する意識の変化や今後の術前訓練を効果的に実施する方法を検討する。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成29年1月6日承認

審議年月日	平成28年12月20日	
申請者	運動療法主任	藤田 龍一
代表者	運動療法主任	藤田 龍一
共同担当者	理学療法士	栗原 淳 他3名
16-12	脊髄損傷患者のベッドギャジアップ時の背抜きの状態調査	
研究の概要	脊髄損傷患者は褥瘡発生リスクが高く、一度褥瘡を発生させると褥瘡治療に専念せざるを得ない状況となり、リハビリテーションなど社会復帰に向けた取り組みを遅延させ、患者にとっては不利益となってしまふ。今回脊髄損傷患者のベッドギャジアップ時の背抜きの現状を調査し、褥瘡発生の予防に役立てることを目的とする。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成28年12月28日承認

審議年月日	平成28年12月20日	
申請者	看護師	池田 克也
代表者	看護師	池田 克也
共同担当者	看護師	齋藤 秀明 他2名
16-13	腰椎変性側弯症に対するOLIF術後の安静期間の排便コントロール	
研究の概要	OLIF術後に便秘に悩む患者が多いが、便秘に対し統一したケアはされておらず、個々の看護師の判断に委ねられている。術後、床上安静により活動量が低下することや疼痛により排便時力めないことなど種々の要因により便秘になりやすいが、2回目の手術までに1度は排便があることが望ましい。本研究を通じてOLIF術後の患者に対して統一した排泄ケアを見出したい。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成29年2月10日承認

審議年月日	平成29年2月21日	
申請者	リハビリテーション科医師	宇内 景
代表者	リハビリテーション科医師	宇内 景
共同担当者		
16-14	当院回復期病棟退院患者の自宅退院後の実態調査	
研究の概要	退院後の介護体制や在宅サービスの利用状況や退院後の生活での不安や問題点を把握することで、入院中及び退院後の生活で生じる不安や問題点を軽減できるような支援を入院中から行う示唆が得られると考えた。	
判定	条件付承認	指摘事項を修正のうえ、平成29年3月9日承認